

子どもが学校での話をいろいろしてくれるので、「ふーん、アメリカではそんなことするんだ」と、分かったつもりでもいまいっぴんときません。そして、自分自身で経験したことがない話ですから、子どもの言葉の一つ一つに質問し、日本育ちの価値観で判断し、よく考える前に言葉にしてしまいがちです。それで、「お母さんは、私たちをちゃんと（きちんと）ケアしてくれてる?」となります。それがまた、「それってどういう意味?」と、またまた私は子どもに質問せめに。その結果、「お母さん、やっぱりぜんぜん分かってないじゃない・・・。」

ところが、多民族で成り立つお国柄からか、また、アメリカ人の家庭も例外ではないのか（私とは違った意味で）、この時期の親子間での行き違いはどこにでもあるようです。入学して間もない頃、子どもが学校から「Parenting」という、聞きなれないプログラムのパンフレットをもらってきました。思春期の子どもに、親としてどう向き合うのがいいのか、専門家の意見を聞いて一緒に学びましょうというもの。それに参加してみました。

子どもは自分のケアをしてくれる対象としてまず親を選択するので、心身ともに不安定となるその原因と構造を、親が正しく理解しましょう、という話から始まりました。子どもの過激な態度や言葉使いに対する、親として望ましい冷静な対応と判断の仕方、その上での注意深い言葉の選択などといった具体例が、たくさん示されました。（興味のある方は Web で Parenting をご覧ください。）アメリカでも、第三者の意見を聞くのもいい方法だと、気楽に子ども専門のセラピストに相談する、ということも、この時に知りました。

アメリカでの子どものケアの仕方に初めて触れて、考えさせられたことが一つあります。子どもが悩みごとや不安に思うこと、自分では解決できないようなことにぶつかったとき、子どもの話を聞く姿勢や話し合う言葉使いに対して、親が信頼感のある頼りにすべき対応ができるかどうか、ということが鍵になるのだと。これがアメリカ式の Parenting なのかしら・・・。

たしかに、親が子どもの問題に輪をかけるように、ネガティブなことを言ったり行ったりすることは逆効果になると、誰が考えても明らかです。そう考えてみると、アメリカ式のポジティブ思考な会話は、子どもが親に話しかけやすいのでしょう。私でもやれそうな気にさせられました。ですが、実際にやってみると、身についていないことを始めたものですから、なかなか大変です。

<努力しつづけること>

私が子どもの話でピンとこないと同様に、子ども自身が私の言うことやすることにピンときていなかったのでしょうか。子どもにすれば、毎日、ほとんどの時間を過ごしている現地校での生活が中心となっていますし、自然、実生活で大きな影響を与えられているのも、そこで受ける教育からです。

お稽古事を含め、現地校や補習校の勉強、また、日本人としてしつけのためなどと思ったことに、私が子どもに言葉を惜しむ、などということはありません。その結果、私の言葉の端々から、子どもは、親の考え方を理解しにくくさせる原因となっているものが、価値観や習慣の違いからだと思えます。

我が家の子ども達は、子ども自身のことを話したり聞かせてくれたりした方だと思います。悲しいことに私の場合、子どもの話にとんちんかんな質問やコメントをしたりして、ひんしゅくを買うこと度々。子どもに対して、望ましい Parenting 本来の「ケア」ができたかどうか、全く自信はありません。

子どもも成人してからは忙しく、会う機会はほとんどありません。ですが、近況を知らせてくる度、「お互い年を取って、話しやすくなった」と感じます。これは、子どもが、私が子どもをケアしているから努力するのだと理解し、辛抱強く私に付き合ってきたからでしょうか。

<子どもの問題は家庭の問題>

海外で子育てをしていると、日本では考えられないような子どもの問題にぶつかります。それがカルチャーや個人的な環境の違いからなのかは分かりません。ですが、その芽を育てる苗床が、家庭の中で作られているのではないかと考えています。

松本 康子（まつもと やすこ）

1979 年、夫の留学で、1 歳半の長女を帯同し渡米。その後、アメリカで次女、三女を出産。専業主婦として子育てと教育を担当。

子ども達は、親から見てうらやましいバイリンガル・バイカルチャーの大人に育ちました。しかし、「アメリカで日本人の子どもをバイリンガルに育てた」私が、実は、子どもに育てられていたのです。このコラムでは、「海外でともに育った母と子」の姿を紹介させていただきます。

皆さんの海外での子育ての参考になりますでしょうか？



思春期の子どもを育てるのは、世界中どこにいても大変な努力が必要です。まして、親自身が育った環境・社会とは異なる、異文化の中での子育てとなると・・・。

Parenting。辞書では「育児・子育て」。もう少し年齢が高い子ども？インターネットで調べてみると「親業」＝「一人の人間を生み、養い、社会的に一人前になるまで育てる」という説明があり、子どもとのコミュニケーションのトレーニングが中心のようです。康子さんは、子どもと一緒に育ちながら、「自己トレーニング」をしたようです。ご苦労様！